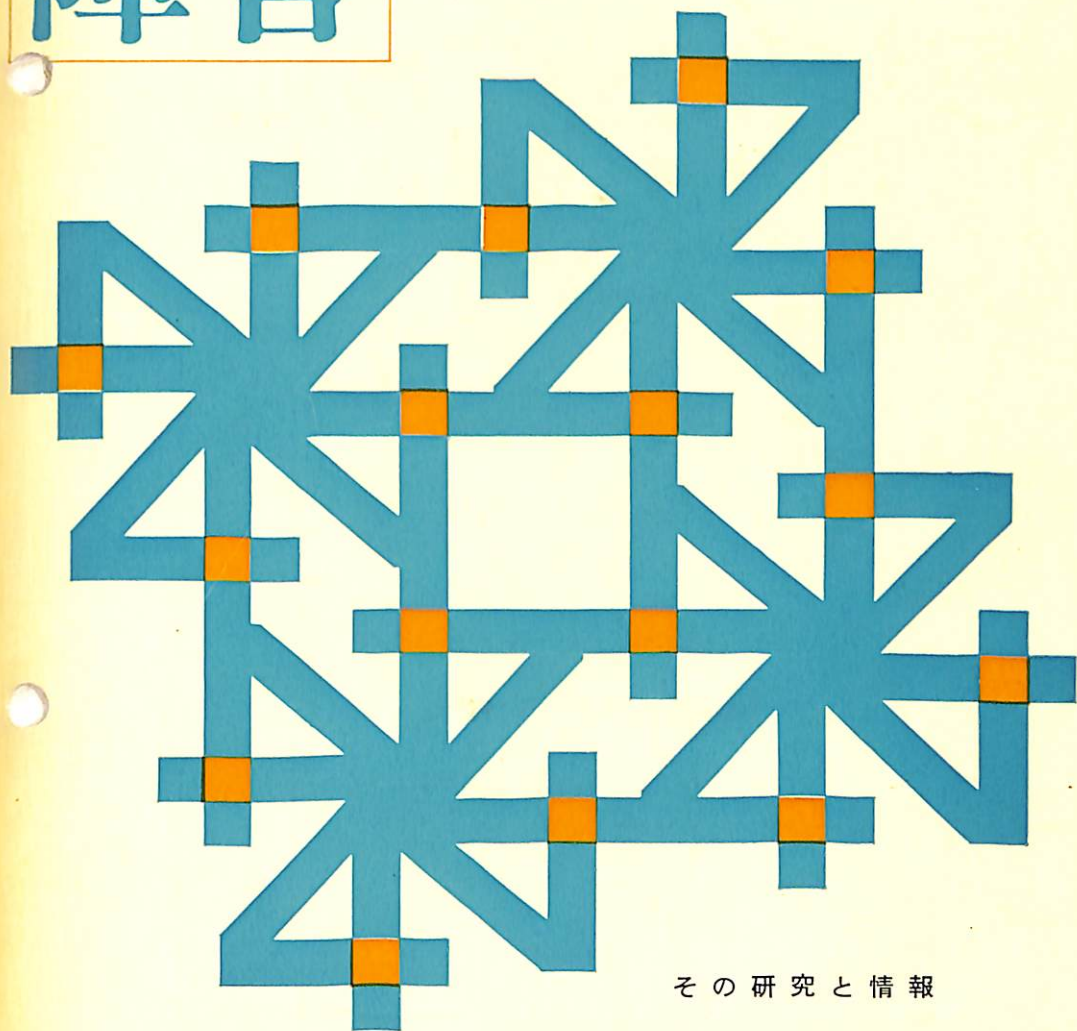


視覚 障害



その研究と情報

1979年11月 No.44

I S S N 0385-7476

つくる喜び、しらべる楽しさ——探求心をはぐくむシリーズ 〈小学校 中・高学年向〉

算数と理科の本

全30冊
既刊10冊

小学校の中高学年で学ぶ算数と理科の中から、子どもたちが興味をもち、学習の基本にもなるテーマを選んでつくりました。そして算数と理科とが総合的に理解でき、全体として広く科学の基礎を習得できるよう配慮されています。各冊遊びや生活の中に題材を求め、簡単にできる実験や工作を写真や図解を用いて説明し、子どもたちが楽しみながら論理のすじみちをとらえられるよう工夫されています。B4判実型上製

1 面積のひみつ

いろいろな形の面積が
工作用紙を切ったりつ
ないだりして求められる。組合せ
方に工夫してみよう。 八五〇円

2 ぼくがつくった温度計

ボールペンで温度計を
つくってみよう。その
温度計から水のじょう発や温度の
話がわかってきます。 八五〇円

3 さかなの食事

カダヤシという魚は水
中において空中のハエや
クモ等もたべる。どうして口にする
ことができるのだろうか。 八五〇円

4 名前のある数

遠藤一夫文 cm、kg、分などこん
山下勇三絵 な単位をつく数字が
名前のある数です。大切な単位が
使いかたがわかります。 八五〇円

5 とかして遊ぼう

中川直哉文 身のまわりのものを
村田道紀絵 使ってとかして遊ば
う。動物ろうそくやペンダント等
楽しいものが作れます。 八五〇円



6 わかるわりざん

松井幹夫 空からきた星の子た
まのりこ ちが探険をしながら
わり算のいろいろなやり方をみづ
けていくお話です。 八五〇円

7 ひろがるざん

赤木昭夫文 サハラ砂漠やメソポ
浅野邦夫絵 タミアの砂漠がどう
してできたか。原因をもとめて自
然のしくみをつきとめる。 八五〇円

8 記号のなぞとき

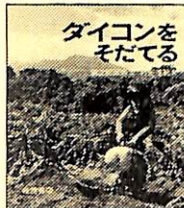
板倉聖宣 機関車、電車、道路標
村田道紀絵 識や電気部品にはお
もしろい記号が使われている。記
号のなぞときをしよう。 八五〇円

9 グラフのおもしろさ

三石展文 グラフを使うと数字
村田道紀絵 や言葉ではわからな
いことが見えてくる。データをも
とにグラフをつくろう。 八五〇円

10 ダイコンをそだてる

須之部淑男文 日本のゲイコンは百
村田道紀絵 種以上ある。どのよ
うにしてこんなに多くの種類がど
くりだされたのだろうか。 八五〇円



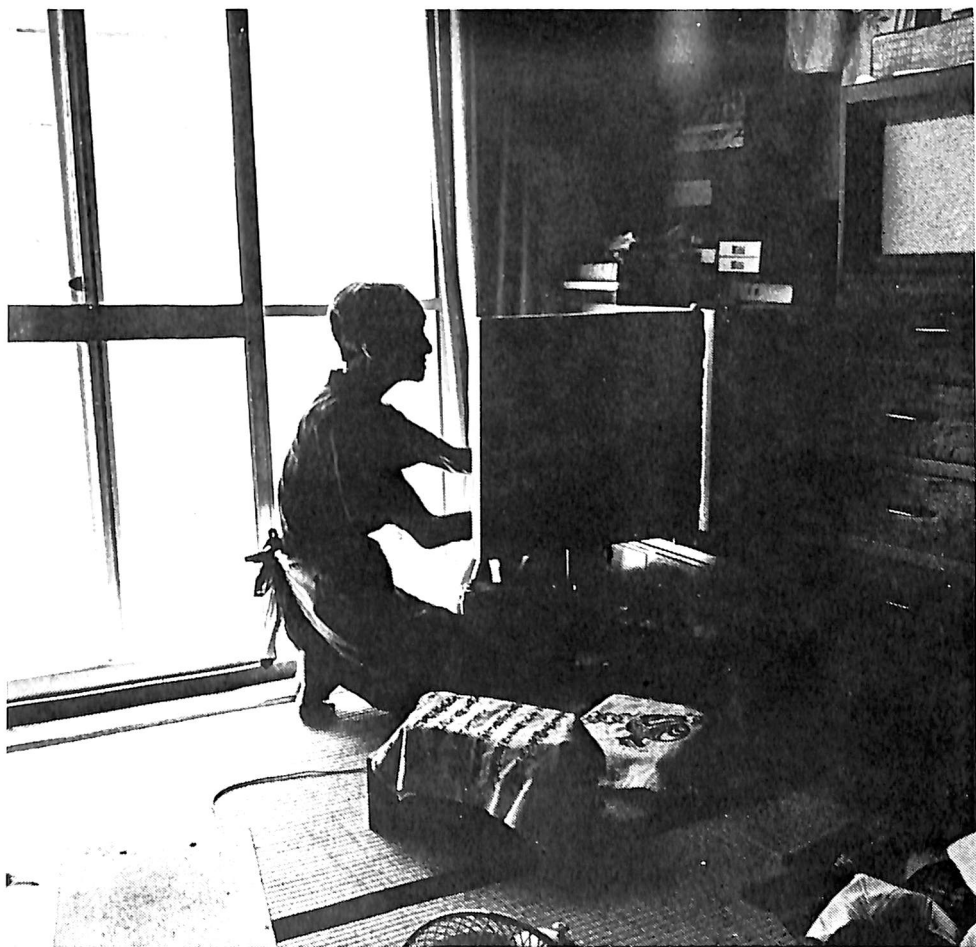
岩波書店



東京千代田一ツ橋2-5-5
振替番号<東京>6-26240

しあわせを求めて

暇をみて雑布作りに精を出す。毎年敬老の日に地元の小学校に寄付するのだそうだ。
“がんばらないと、敬老の日もうすぐだよ”と男性職員に声をかけられ、“大丈夫だよ”と元気で応戦していらっしやる。この部屋の隅には、その小学校の生徒さんから贈られたという、手作りのルームアクセサリーが飾られている。（第二聖明園）



写真をとお願いしたら“今お洗濯終えたところで、部屋中ちらかってるの、これから片付けるとこなのよ”とおっしゃる。そのままで片付けをしているところを、と重ねてお願いすると“でも前かけなんかしてるからはずそうかしら”とおっしゃる。その方がかいかいしくて素敵です、という“あら、そうお？”とにっこりされた。（聖明園）

お誕生会



お誕生会は、毎月、その月のお誕生者への園長からのプレゼントで始まる。日ごろかかわりのある地元の人をゲストに迎えるのが恒例で、この日(通算50回目)は、いつもお世話になっている銀行の支店長さんと営業の方が招待され、なごやかなひとときに一役買っていच्छった。



器楽グループ、ザ・イレバーズのメンバー、真剣な演奏



富士見園の今月の誕生者
—おめでとう、いつもでもすこやかに—



青梅線東青梅から1.5 kmとか、敷地8千坪の高台には、さわやかな風に赤とんぼがとんでいた。すばらしい自然環境、そこに、聖明福祉協会の経営になる盲老人ホーム聖明園、第二聖明園、起居不自由な老人のための施設（約半数が盲老人）富士見園はあった。

やおやさんは毎日、スーパーマーケットは週に1回、施設内に売店もあるけれど、こうした外との接触も生活に変化をつけてくれる。



日常における“しあわせ”ということを考えてみた。孤独でないこと、単調でないこと、期待を持てること、期待を持たれること。違うかな？これがすべてではないかもしれないけれど、これだけが満たされるのは並たいていのことではない。

きめ細かく、心をこめて、盲老人のための日々をきざんでおられる本間園長をはじめとする関係者の方々には頭が下がった。

スイスのホーム

ジュネーブの盲老人のための施設

Service social pour
handicapég de la vue

(昭和53年夏)



完成して1年

設備は美しく、整って清潔で、

そして、

盲老人達はどこかさびしそう、大切なのは、決して設備だけではないと
実感させられた。



目 次

1979年 11月 No.44

2 ページ評論..... 森 幹郎… 2

特集 盲老人の生活

盲老人問題の現状と課題..... 本間 昭雄… 5

失明老人のホーム生活..... 中村 桃子… 28

名盲老人クラブ——その昨日・今日・明日..... 岩山 光男… 36

人と施設 盲老人ホーム建設奮戦記 41

先人の叡智（その6） 46

インフォメーション・コーナー 51

日本盲人福祉研究会からのお知らせ 56

編集後記 57

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

編 集 後 記

暑い暑いと言っていたのに、もう虫のすだく秋となってしまった。時の流れはだれにも平等にやってくる。障害者であろうと、健常者であろうと時は平等に過ぎていく。

この号は、盲老人福祉問題を中心テーマとして取りあげた。そして中部地区が担当し、名古屋で編集会議が持たれた。名古屋は日本のヘソだとか、偉大な田舎だとかいわれ、いずれにしても知性が乏しいという印象があるようだ。それでか、このたびのテーマの取りあげ方が、視覚障害者の社会の現実には照らして、あまりにも知性がないというそしりを免れない気がしないでもない。

三療は医業である。修業年限など医師と同じようにしなければならないという主張が起きてくるであろう。その主張の中から視覚障害者が除外されないように、今から対策を立てておかなければならない。あるいは、視覚障害者の職業選択の自由とか、重複障害者の進路など基本的人権にかかわる超重要な問題があるのではないかなと言われそうな気がする。

とくに、盲老人の第2軍、第3軍の方々はこんなことを考えられるであろう。しかし、この方々にも時は同じように過ぎていくのである。執筆には、幸いにもこの盲老人問題に関する最高権威者をお願いすることができた。これからの盲老人福祉問題を考える手がかりとなれば幸いである。(勝川 武)

視 覚 障 害 1979 年11月 No.44

年間購読料 2,500 円(送料とも)

発行日 1979 年11月 1 日

発行者 本間 一夫

編集者 松井新二郎

発行所 日本盲人福祉研究会

〒160 東京都新宿区高田馬場1丁目
日本点字図書館内 23番4号

電話 (03) 200 - 1130

振替口座 東京 6-16103

印刷所 合同印刷株式会社

〒130 東京都墨田区業平2-9-13

電話 (624) 6111 (代表)

協賛団体 日本点字図書館